

# I-LC誘致 政治判断へ

## 「現状、支持に至らず」

### 日本学術会議 文科省に回答

政府の向きなき意思表示を期待  
達増知事の話 今般の審議で学術的意義が認められなくては極めて重要な国際協議に向け、政府の向きなき意思表示を期待する。論じられた点は国際協議による具体的な負担内容や研究者による設計などの準備が進展し、社会的理解を得て実現できると考える。

議論深めながら解決目指すべき  
村井嘉浩宮城県知事の話 誘致を支持するに至らないとの所見は大変残念に思う。示された経費分担等の課題は今後、国際協議等で議論を深めながら解決を目指していかねば。国はI-LC誘致がもたらす多大な効果と意義を十分踏まえ、前向きな判断を期待する。

所長らで構成する国際将来加速器委員会(I-CFA)が昨年11月、初期整備延長の短縮計画を承認。これを踏まえ、日本学術会議は文科省の依頼で今年7月から国内誘致の意義について検討を重ねてきた。

【東京支社】国際リニアコライダー(I-LC)の国内誘致の意義について検討する日本学術会議は19日、文科省に回答書を提出した。I-LCの学術的な意義を認めた上で、巨額経費の適正な国際経費分担について「見通しが明らかでない」などと懸念を指摘。「現状の計画内容や準備状況から判断して、誘致を支持するには至らない」との所見を示した。日本政府が意思表明を求められている国際期限は来年3月7日。計画実現の可否は政治判断に委ねられる。

#### 【所見要旨】 関連記事4面

回答では、I-LCで行う進む方向性に示唆を与える可能性があること、同一加速器粒子の研究について「今後の素粒子物理学が」認識を持った」と意義を認め、当初31.5ギガ電子ビームの初期整備延長を20ギガに短縮することについても「妥当な戦略」と評価した。

一方、短縮に伴い当初1兆1千億円とされた整備費が7千億、8千億円に削減される方向となったが、「適正な国際経費分担の見通しが明らかでない」と指摘。運営に携わる研究者や技術者は「日本の現状では不足している」とし「新たな人材育成や海外からの参画で賄うのは不確定要素が大きい」と課題を挙げた。その上で「現状の計画内容や準備状況から判断して、日本に誘致することを選択するには至らない」と



文部科学省の磯谷桂介局長にI-LC計画見直し案について回答を手渡す家泰弘委員長(左)=19日、東京・霞が関

#### 日本学術会議の回答のポイント

- ▶ 高エネルギー素粒子物理学のコミュニティーではI-LCが重要な合意が得られている
- ▶ 経費が格段に大きい計画のため、他の諸学問分野も含めた幅広い議論が必要
- ▶ 研究目標をヒッグス結合の精密測定に絞り、最適化のために計画を見直したのは妥当
- ▶ I-LCの学術成果は今後の素粒子物理学が進む方向性に示唆を与える可能性がある
- ▶ 適正な国際経費分担の見通しが明らかでなく、人材育成・確保についても不確定要素が大きい
- ▶ 現状の計画内容や準備状況から判断して日本誘致を支持するには至らない

【解説】日本学術会議が19日、文部科学省に提出した回答書は「日本学術会議は19日、文科省に回答書を提出した。家氏によるI-LC誘致がもたらす多大な効果と意義を十分踏まえ、前向きな判断を期待する。」と、I-LC計画を巡っては世界の主要な加速器研究所の本格稼働が想定される。

【解説】日本学術会議が19日、文部科学省に提出した回答書は「日本学術会議は19日、文科省に回答書を提出した。家氏によるI-LC誘致がもたらす多大な効果と意義を十分踏まえ、前向きな判断を期待する。」と、I-LC計画を巡っては世界の主要な加速器研究所の本格稼働が想定される。

【解説】日本学術会議が19日、文部科学省に提出した回答書は「日本学術会議は19日、文科省に回答書を提出した。家氏によるI-LC誘致がもたらす多大な効果と意義を十分踏まえ、前向きな判断を期待する。」と、I-LC計画を巡っては世界の主要な加速器研究所の本格稼働が想定される。

【解説】日本学術会議が19日、文部科学省に提出した回答書は「日本学術会議は19日、文科省に回答書を提出した。家氏によるI-LC誘致がもたらす多大な効果と意義を十分踏まえ、前向きな判断を期待する。」と、I-LC計画を巡っては世界の主要な加速器研究所の本格稼働が想定される。

## 鍵握る国際協議

【解説】日本学術会議が19日、文部科学省に提出した回答書は「日本学術会議は19日、文科省に回答書を提出した。家氏によるI-LC誘致がもたらす多大な効果と意義を十分踏まえ、前向きな判断を期待する。」と、I-LC計画を巡っては世界の主要な加速器研究所の本格稼働が想定される。

(東京支社・熊谷真也)